

地震・津波について 知ろう

震度と揺れ等の状況

南海トラフ巨大地震が発生したとき、田辺市では最大震度7が予想されています。



津波に関する警報と注意報

津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より「大津波警報」「津波警報」「津波注意報」が発表されます。

	発表される津波の高さ 数量での発表(津波の高さと予想の区分)	とるべき行動	想定される被害
大津波警報 (特別警報に位置付け)	10m超(10m<予想高さ)	海岸や河川沿いにいる人は、ただちに高台などを安全な場所へ避難してください。 津波は繰り返していくので、津波警報が解除されるまで安全な場所への避難を続けてください。	木造家屋が全壊・流失します。 人は津波による流れに巻き込まれます。
津波警報	10m(5m<予想高さ10m)	高い	ラジオ・大津波警報の発表状況(気象庁)・津波警報の発令状況(気象庁、和歌山県)・津波警報が解除されるまで安全な場所への避難を続けてください。
津波注意報	5m(3m<予想高さ5m)	3m(1m<予想高さ3m)	海の中にいる人は、ただちに海から上がり、海難から離れてください。 津波注意報が解除されるまで船に入ったり海上に近づいたりしないでください。

●震源が陸地に近いと津波警報が間に合わないことがあります。「揺れたたら避難を直ちに」といって、津波沿岸の地域などは影響により活動的に予想よりも早くなる場合があります。「おとづれ」として、津波警報が発表されると同時に、津波の高さは、通常は3段階の数値で発表されます。ただし、地域の規則(マニュアル)があるところもあるので、最初に発表する大津波警報や津波警報では、予想される津波の高さを「巨大」や「高い」といいう言葉で発表され、非常事態であることを伝えられます。

一人ひとりが行う 自分自身の防災活動

自助・共助・公助

防災・減災のキーワードとして、「自助」「共助」「公助」という言葉がよく使われます。自助とは「自分の身は自分で守る」こと、共助とは「家族・近所でお互いに助け合い地域を守ること」を指します。また、公助とは「公的機関からの救助や支援」を指しています。災害の発生を完全に予見し防ぐことはできませんが、自助・共助・公助が連携し、効果的に機能することで、被害を減らすことが可能となります。

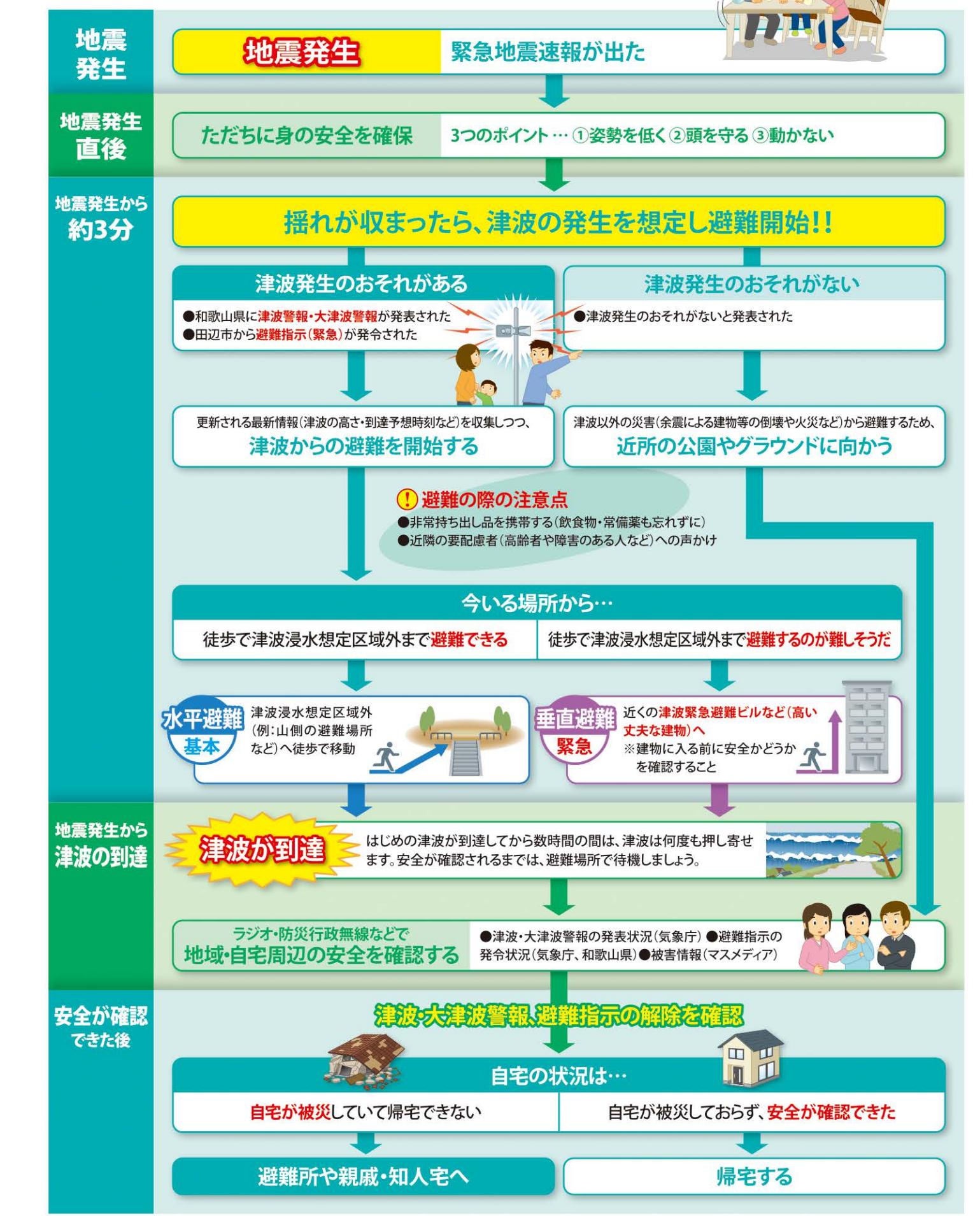


今すぐできる地震対策

地震によって建物が倒壊しない場合でも、大きな家具の転倒やガラスの飛散などにより、ケガをしたり、閉じ込められたりするおそれがあるので、今すぐ地震対策をしましょう。



地震・津波から 身を守るポイント



避難経路を想定して マイマップを作ろう

マイマップの作り方

地震はいつ起こるかわかりません。いろんな場面において地震や津波が起きた場合に備えて、家族みんなの避難先(裏山、高台、公園など一時的に身を守るために緊急避難する場所)を確認しておきましょう。また、表面の津波避難マップに、自分が避難する場合を想定した避難情報を書き加えて、より具体的な避難行動イメージができるようにしておきましょう。

マイマップの記入例(表面:津波避難マップ)

①自宅や学校、勤務先等をチェック

まず、津波避難マップであなたの自宅や学校、勤務先を探して、予測されている被害の有無・津波浸水想定区域に入っている、危険箇所がある等)を確かめましょう。

津波の浸水範囲にかかる道路や橋、地下道、狭い道路は避けるコースを設定しましょう。



②避難先と避難経路を決める

次に、目標とする避難先を確認して、避難先までの経路を考えてみましょう。

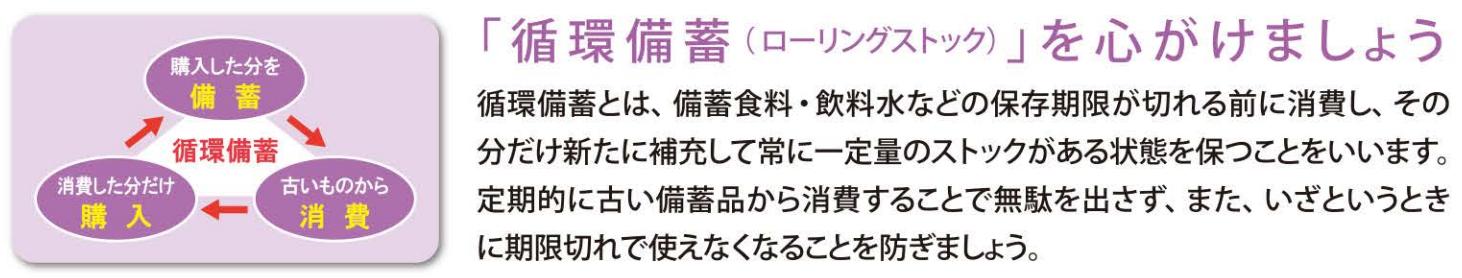
津波の浸水範囲にかかる道路や橋、地下道、狭い道路は避けるコースを設定しましょう。

日頃からの備えが大切 非常持ち出し品・連絡方法など

非常持ち出し品の準備

食料	救急・安全対策	貴重品
<input type="checkbox"/> 飲料水(1人1日2~3リットルを目安) <input type="checkbox"/> 非常食(缶詰、乾パン/パッケージ食品など) <input type="checkbox"/> 携帯食(チョコレート、キャンディーなど) <input type="checkbox"/> 粉ミルクと離乳食(赤ちゃんがいる場合) <input type="checkbox"/> アレルギー対応食品(アレルギーがある場合)	<input type="checkbox"/> 常備薬(胃腸薬、かぜ薬など) <input type="checkbox"/> 包帯、ガーゼ、はんそうこう <input type="checkbox"/> 損傷、消毒薬 <input type="checkbox"/> 持病のある方の薬 <input type="checkbox"/> ヘルメット、防災ズキン <input type="checkbox"/> ホイブル	<input type="checkbox"/> 現金(小銭も必要) <input type="checkbox"/> 預貯金通帳、印鑑 <input type="checkbox"/> クレジットカード類 <input type="checkbox"/> 持病保証 <input type="checkbox"/> 免許証など(身分を証明するもの)

衣類など	日用品など
<input type="checkbox"/> 衣類(軽い物と薄い物) <input type="checkbox"/> 下着類 <input type="checkbox"/> タオル、毛布 <input type="checkbox"/> 手袋、軍手 <input type="checkbox"/> 寝袋 <input type="checkbox"/> 雨具	<input type="checkbox"/> 携帯電話(充電器・バッテリー) <input type="checkbox"/> 新聞紙 <input type="checkbox"/> 筆記用具(油性マジック) <input type="checkbox"/> 洗面用具 <input type="checkbox"/> メガネ <input type="checkbox"/> ティッシュペーパー <input type="checkbox"/> ウエットティッシュ <input type="checkbox"/> 懐中電灯(予備電池) <input type="checkbox"/> 紙おむつ <input type="checkbox"/> 携帯ラジオ(予備電池) <input type="checkbox"/> 生理用品



「循環備蓄(ローリングストック)」を心がけましょう

循環備蓄とは、備蓄食料・飲料水などの保存期限が切れる前に消費し、その分だけ新たに補充して常に一定量のストックを保つことをいいます。定期的に古い備蓄品から消費することで無駄を出さず、また、いざというときに期限切れで使えなくなることを防ぎましょう。

災害時の連絡方法・情報の入手先

災害時の連絡方法を家族で確認しておきましょう。また、田辺市の『防災・行政メール』を登録しておきましょう。

災害伝言ダイヤル	田辺市防災行政情報システム「防災・行政メール」
電話を用いて安否情報(伝言)の録音・再生を行うことができます。	気象警報や避難情報などの災害に関する情報をメールでお知らせします。
① 171をダイヤル	【登録方法】 ①regist@bousaiyousei.aamilk.aikis.jpに空メールを送信します。(メールアドレスが登録されます)
② 録音は①	②の直後に登録確認メールが送られてきますので、そのメールに記載されておりURL(ホームページアドレス)にアクセスします。
③ 被災地の方の電話番号を市外局からダイヤル	③確認ページが表示されますので登録を完了させます。
④ 音声ガイダンスに従い、録音／再生	④その後、情報が発信された場合に防災・行政メールとして送られています。
田辺市ホームページ	田辺市の防災に関する情報などを提供しています。 URL http://www.city.tanabe.lg.jp/

みんなで助け合う 地域の防災活動

自主防災組織の役割

自主防災組織とは、「自分たちのまちは自分たちで守る」という、地域住民の連携に基づき、結成される防災組織のことです。自主防災組織は、災害発生時に、お互いの身を守るために、平時からの防災訓練を含めた防災活動を行います。災害時に効果的な活動ができるよう、住民一人ひとりが防災に関する正しい知識を共有し、各家庭で災害に備えるとともに、地域住民が一体となり防災活動へ取り組むことが重要です。

日常の活動例	災害時の活動例
●防災知識の普及 防災講演会の開催、防災チラシの発行など。	●初期消火活動 地震時の出火防止、火災が拡大するまでの初期消火、消防隊が到着するまでの延焼拡大防止。
●地域の危険箇所等の把握 災害危険箇所・防災上有効な施設の把握、地域防災マップの作成など。	●避難誘導 正確な情報による安全な避難経路を経由した住民避難誘導。※避難行動要支援者(高齢者、障がい者などの支援をする方)を優先。
●防災訓練 情報伝達・避難・避難場所開設・運営、初期消火、応急手当、給食・給水訓練など。	●救出・救援活動 負傷者の救出や応急手当の実施、重傷者の病院搬送。
●防災資機材の整備 防災活動に必要な資機材の整備や確認など。	●避難行動要支援者への支援 避難行動要支援者の情報提供・避難支援。
●防災に関する地域のコミュニケーション 防災に関する地域のコミュニケーション	●情報収集・伝達活動 防災関係機関・地域内の情報収集・伝達。
項目からのかけあわせ、配慮者への支援体制の確立。	●給食・給水活動など 避難場所での食料・飲料水、救援物資の配給、炊き出し。

避難行動要支援者の手助けをしましょう

避難行動要支援者とは、一般に高齢者や障がい者、乳幼児や妊娠婦、日本語を十分理解できない外国人など、災害発生時の避難に時間のかかる方々のことです。地域で協力し合いながら、近所の要支援者の方の安否確認や避難場所への避難を支援しましょう。

高齢者・病人	●おぶたん、リヤカーに乗せたりして安全な場所まで避難する。 ●複数の介助者に対応する。
目的の不自由な方	●声をかけ情報伝達する。 ●説教する場合は、杖を持った方の手には触れず、ひじのあたりを軽く持つてもらいましょう。
肢体の不自由な方(車椅子)	●階段では2人以上が必要。上りは前向き、下りは後ろ向きにして移動する。 ●介助者が1人の場合、ひもなどを用意し、おぶって避難する。
照明器具の補強	●話すときは、口をハッキリと開け、相手にわかりやすくします。 ●手話、筆談、身振りなどの方法で正確な情報伝達。

明洋・元町明洋団地地区における主な避難場所と避難経路

